

反射望遠鏡は月および惑星の観測を行なうために、昭和35年10月に花山天文台に設置されたものであり、その性能は下表の通りである。

型	式	ニュートン・カセグレン式
主鏡口径		600 mm
主焦点距離		3,300 mm
主鏡の明るさ		F/5.5
副鏡との合成焦点距離		12,000 mm
副鏡組合せによる明るさ		F/20
分解能		0'19
集光力		7,400
極限等級		16等級
日周精度		1'5/30分時
筒の大きさ		860 mmφ×3,700 mm
総重量		4,500 kg

(四) 人員

当天文台の台長は京都大学理学部教授宮本正太郎で、専任職員は昭和43年12月現在次の通りである。

助教授 服部 昭，助手 神野光男，教務補佐員 赤羽徳英，技官 松井宗一，技官 荻町洋一，技能員 石浦清美。

なお、観測活動は上記の専任職員が中心となつて行ない、京都大学花山天文台の大学院学生も実習観測に従事する。

3. 将来計画

60 cm 望遠鏡一つでは、はなはだ心細い状態であるので新しい観測機械を設置することが望ましい。現在計画中的ものは次の通りである。なお定員は花山天文台を

含めて三講座分を要求中である。

(1) 65 cm 屈折望遠鏡 (昭和44年度要求)

月面の精密観測および、火星の気象の研究のためには口径60 cm級の屈折望遠鏡がのぞましい。この口径の機械は惑星観測の標準的望遠鏡で、その偉力は、ローエル、ムードン、リック等の諸天文台で実証されている。

(2) 20 cm 彩層望遠鏡 (昭和45年度要求)

太陽大気の研究には、彩層、コロナの直接写真および分光写真の研究が必須のものである。しかし、これらの光は太陽本体にくらべて極めて弱く、通常の太陽望遠鏡では空の明るさと大気の乱流に埋れて撮影することは殆んど不可能である。そのため、望遠鏡内での散乱光を少なくするように特別に設計された彩層望遠鏡が不可欠となる。これによって、太陽活動の監視とともに、彩層や紅炎の運動解析、その微細構造の研究が可能となる。

(3) 100 cm 反射望遠鏡 (昭和46年度要求)

火星、金星、月などの表面の物理学的研究、とくに赤外線観測のためには、少なくとも口径1メートル級の反射望遠鏡が必要である。100 cm 望遠鏡については、諸外国から京都に新設するようにとの強い要望が前々からあり、花山天文台においても、この望遠鏡の補助望遠鏡として現在の60 cm 反射望遠鏡を新設したのである。

以上にあげた計画は国際共同観測に必要な最小限の設備であり、インドのハイドラバード、アラブ連合のヘルワン等にすでにこの程度の規模の天文台が建設されている。飛驒天文台にも、これらの観測機械の新設が一刻も早く望まれる。

(この記事は開所式に配布したパンフレット原稿に手を加えたものである)

飛驒天文台候補地調査日記抄

候補地の調査にあたった連中は、いずれも日記をつけていた。その中から新年号にふさわしい部分を抜書きする。文章はもとのままである。

1. 上宝調査報告ノート

昭和38年8月から11月まで上宝村の十三墓峠、国見山、立平でテントを張った。大雨見はまだ調査していない。

8月18日。久保田、午前4^h 洛西運送のトラックで京都出発、午後2^h30^m 上宝村役場着。服部、ひるすぎ吉岡助役と十三墓峠附近でキャンプ地決定。

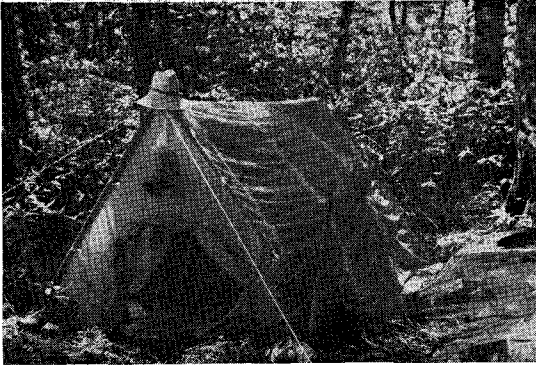
○宿屋は本郷に一軒あり。

○高山発本郷行のバスは、一日に、7^h00^m、11^h40^m、16^h10^m の三本あり。

8月19日。ひる前大夕立。午後曇、夜快晴。

雨のやむのをまって小型トラックで荷物を運ぶ、トラック1000円、チップ100円、人夫2人2000円、チップ200円、白灯油425円、終日キャンプ地建設、夜は快晴シーイング良好なれど、つかれて早くねる。

8月22日。朝から曇時々雨ふる。20日夜のフィルム現像する。午後降ったりやんだり。16^h30^m、助役さん、教育長さん、役場の女子職員5名来訪、雨中に幕をはり、スキ焼とバーベキュー。20^h 帰る。キュウリとパンもらう。夜大雨、テントから水がもり排水作業を行なう。(服部)



第1図 上宝村立平の調査用テント

9月17日、本郷着 17^h50^m、服部と助役さんに会う。バンメシは服部のトツテキタ、キノコ類、キクラゲ、シイタケ、マツタケ(小)、ニギリタケ、キクラゲとオロシのスツケはウマカッタ。トンチャンは皆食う(ただし川口を除く)。服部と今後の方針を相談、18日より国見山に行くことにする。夜の星空は美しかった。木星の光輝は京都よりは一等級は明るく見えた。6等星まではっきり見えた。

9月18日。6^h起床、7^h30^m 夫9名と、ジープと耕運機2台で出発、約1時間かかり国見峠につく。簡易水道作り、整地。10^h すぎヒルメシ、雨ひどく降る。夕食 5^h。(メシできそこなう。ラジウスの圧不足のため、ハム、卵、カンヅメ、野菜)。夕刻より雨上る。気温 9°C、峠に出る、天は晴、アルプスは厚い雲。

9月22日。8^h 村役場出発、役場から約 15km の立平に上る。営林署の伐サイ運搬機で荷物を運び尾根の上にテントはる。ここは水場近く、国見山より場所良し。夕方から雨。東映の勝(表日本は晴の証拠である)。こんな山奥に乙女2名がいたのにはおどろいた。赤羽君も同感の由!! 手伝ってくれた役場の高屋君は本年婚約成立とのこと。赤羽君と同年ですぞ!! 戸倉全勝優勝した。エライヤッチャ。(川口)

2. 焼山日記

38年8月から12月まで、長野県の各所で調査を行った。とくに美が原の焼山には長期間テントを張った。

8月20日。9^h30^m 斎藤、赤羽到着、10^h00^m 川口、神野到着。Camping Site および Observing Site をきめる。11^h10^m トラック到着。5 inch 組立(屈折) 約 30^m、注意: 5" のまわりの枕は強風時ピラー固定用クイ、これにロープをはり支えられたし。13^h より天幕設営約 30^m、13^h40^m トラック下山、石油代 1000 円、15^h20^m 川口、赤羽下山、16^h30^m 20°C、20^h より眼視観測。ガス多し。壬ヶ頭にガスかかると仰角 30° 以外はだめ。自動車のヘッドライトによる Scattering light あり。マホーピン

運送中破損。21^h 観測中止。13°C、南海—近鉄 5対5、12回引きわけ。23^h 就寝ガス多し(斎藤)

9月11日。14^h30^m~15^h40^m、武石、造林小屋 etc. 調査。① 造林小屋の道路をへだてた上側 50m に絶好のキャンプ地あり。② 武石の頂上は焼山におとるといへども天文台建設に必要な地所は十分あると見た。③ 武石の利点。(i) 霧にじゃまされる率、焼山にくらべ¹/₁₀、(ii) 高いため視野広し、(iii) 霧の良く発生する場所を東にひかえることになる。(椿)

3. 十三墓観測日記

昭和39年初夏から初冬まで、十三墓峠に小屋を建設して調査を行った。

9月4日。早くも当番の最終日なり。記事。5^h、鳴海就寝、10^h 石浦起床、11^h30^m 鳴海起床、12^h 昼食(パン、紅茶、珈琲、鯨カレー煮込)、14^h 洗面のため小屋に下り、上ってお茶をいただく、新井さん、モモさんという方と一緒にいっしょにお酒を御馳走になる。飛騨の山の話、月面の話、津軽の話、15^h~18^h まで、イロリを囲んで飲み且つ話す。18^h 発電機始動、18^h30^m 夕食、朴葉の上でミンを焼いてお茶漬と共に食す。つつい飯を五杯分食す。デザートに「スイミツ」をいただく。21^h 帰宿、鳴海酔気、睡気ですぐ就寝。21^h30^m 石浦君就寝、4^h30^m 鳴海起床、曇、5^h 雲低くたれこめる、乗鞍行は? となる。

4. 八ヶ岳日記

39年6月から11月まで八ヶ岳編笠山中腹の営林署造林小屋を借りて観測を行った。

9月12日。天候、朝、晴、屋雲多し、No Exposure、日没より19^h頃までは、南東より北西に飛び去る低い雲の裂れ目より月も姿を見せていたが、雲の動きが鈍ると同時に厚くなり、月は雲を通して極く稀に見られた。Seeing poor、天頂附近のヴェガと西のアークトウルスは比較的しばしば現われた。瞬きからして Seeing poor、21^h 漆黒、22^h haze を通して銀河現わる、Seeing 悪化し bad、23^h hazy なるも快晴、24^h 西天に若干の雲 hazy、seeing poor to bad、1^h 晴天、haze やや減る、Seeing poor、2^h 晴天 Seeing poor 以下観測中止して就寝す。(矢田)

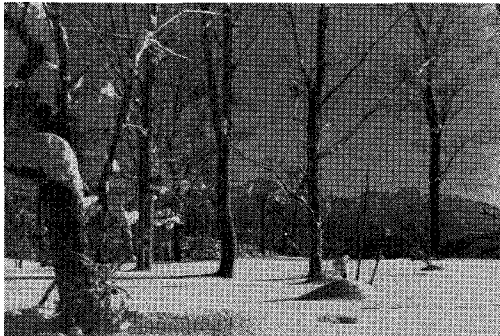
田中さんについていただき編笠山に登る、朝 9^h30^m 出発長いカラマツ林を登り、石楠公園をみて、さらにすくい石ガラの山を登り 12^h30^m すぎ頂上にたどりつく。ところどころ日光に輝く八ヶ岳連峰を眼前に見ることができた。田中さんから山の名前を教えていただく。あいにくモヤで富士山を見ることが出来なかった。Seeing、haze という言葉をおぼえる。4^h30^m 小屋に帰る。今夜は最後

の夜、いろいろな思いが胸をかすめる。ほんとうによい旅だった。(母袋)

5. 大雨見日記

昭和40年に大雨見を最終候補地にきめてからも、現地に建てた観測小屋に四季を通じて、とまりこんだ。

昭和42年8月8日。晴。9^h30^m 船越、石浦上山、アルバイト4氏きて、昨年残した No. 4~No. 1 までの境界標を一時間あまりで埋め終る。若干休けいた後、測量の邪魔になる竹や木、下草を伐る。4氏は弁慶のナギナタのような造林ガマを振りまわして、ばっさ、ばっさとなかなか勇ましい。ところどころ大きな倒木があるが、のこぎりを用意してなかったので残して置いた。後は測量と並行してやれば良いだろう。



第2図 小屋東方の雑木林

こぼれ話(第一話) マムシの首を取った話。

下列り中、アルバイト氏がマムシを発見、さっそく皆よってたかって、鎌や棒で押えつけにかかった。さすがのマムシ大将も多勢に無勢、もはやこれまでと、かんねんしたところを、ナタで首を落した。その首は小生がひき取り、ねんどろに木の葉っぱにくるみ、紙に包んでもち帰った。

(第二話) 夜タカの子供を生けどりにした話(省略)。(黒河)

7^h 起床。本郷の朝は早い。4^hのお寺の鐘は残念ながら聞けなかったが4^h30^m ギョケギョッカーと奇妙なる鶏のときをつくる。プブブー、プブブーとトラックのアクセルをふかす者。電気屋さんまで7^h30^mには店を開いていた。村人は健康そのもの。7^h30^m、松屋にて朝食。みそ汁のおいしいこと。「村の人は早いけど私のところはおそいのですよ。」「さあ皆御飯よ!」至極家庭的。少年サンデーがあったのは嬉しきことなり。9^h30^m小屋到着。黒ちゃんモソリモソリと出現。休けい後ただちに測量にかかる。藪ものすごく午前中は難儀する。高校生良く働いてくれる。大半を済まして昼食にかかる。本日の Main-Event「まむし取り」まむし現われる。鳴

海ふるえ上り、黒河、石浦両氏猛ハッスル。良く肥えたおそろし気なる奴なり。ついにしばり首の刑に処される。15^h30^m 測量終了。いよいよ「まむし君解剖」はじまる。まず首を打ちおとさる。首のみが生き生きと動いて舌を出し、牙を出す。恐ろしきこと。今夜の夢見は良いことはなさそう。するすると皮をはく。内臓を取り出す。心臓ビクビクと動いて止まず。白味の刺身を思わせる美しくき肉なり。首を切り、内臓を取られた肉そのものがまだ蛇行を行なっているのは驚くべきこと。黒河氏フライパンにて「まむしのつけ焼」を料理。コリコリと骨まで食べておいしい。ビールつまみに最適である。おじさんの焼き鳥と同じ味なり。急に精のつきたる気のするなり。小生誕生以来の経験。こうして人間の知識は豊富になるものか。18^h 夕食。黒河氏得意の茄子田楽、ハム、キュウリ、九ちゃん漬。屋の残りとラーメン。仕事した日のウィスキーの味は又格別。オイシイナ! 美味デスナ! 発電機、19^h30^m~21^h30^m。水量 10l/45 sec。天候晴後曇。

まむし食いし夜の夢見の悪しかりき

山人に会いて哀しきまむしかな

山路来てなにやらゆかしまむしかな

まむしは「季語」になるのかしら。

道の端のまむしは人に食われけり(鳴海)

8月31日。曇夜雨。

9^h 定時交信。撮影行(動植物)サンシヨウウオ、オタマジャクシサルオガセ。16^h~17^h 天気図作成。17^h 母袋、石浦来(オドロキ!!)、スキヤキ(らしきもの)、Redで一杯。発電 18^h~21^h、水量 10l/50 sec at 10^h、あすは蔵柱で盆踊り見物の予定(為永)

昭和43年1月26日。うす曇り、時々雪、夕方から晴。登山口の見坂に10^hにつく。登山靴の上からオーバーシューズを着用、さらに「カンジキ」をつける。カンジキのつけ方は、かかとの方は輪から外れても良いが爪先の方は外れないようにしばりつけないと歩きにくいと教わった。10^h20^m 出発為永、斎藤、松井の順で歩く。最初の橋附近で左にそれ、木立の間をぬって進む、路の左側



第3図 小屋到着直後

には見事な風紋が見られ、所々雪庇があった。小屋へ13^h40^m到着。(中略)水場の発掘にかかり、ここぞと思う所を約2m掘り下げ、ほぼそれらしきものを発見した。ボール紙のパイプを2本つなぎ合わせてトイを作る。つぎはキジ場作り。小屋の東方約100mの所に笠、穂高、乗鞍等北アルプスが一目で望める白亜の大トイレ完成!!炊事はプロパンガスが快調で大助かり。18^h30^mトランシーバー交信できず、19^hすぎ夕食をすます。小屋の中はローソク2本だけの照明であるが、なかなか乙なもの。21^h30^mの交信からうじて通ず。気温-10.5°C(22^h) (松井)

学会だより

東京大学理学部天文学教室教授公募

1. 専門分野……天文学
2. 就任時期……昭和44年4月1日予定
3. 提出書類……履歴書、研究業績リスト、推薦書(他薦の際)
4. 公募締切……昭和44年1月15日
5. 宛先……(〒113)東京都文京区弥生2-11-16
東京大学理学部天文学教室主任 藤田良雄

SAM 夏の研究会集録(1968)

第8回のSAM研究会集録ができました。150頁、頒価350円。希望者は東京天文台(東京都三鷹市大沢)松波直幸宛お申し込み下さい。内容は次の通りです。

恒星の分布と銀河系の構造: 総論(松波), 早期星(横尾, 今川), セファイド(高瀬)

星団: 散開星団の統計(高橋), 球状星団の光度函数, 年令と重元素量(下田), 球状恒星系の分布(清水)

星間物質: H II領域の温度分布(磯部), 星間空間の水素分子(西村), 電波観測(森本)

銀河: 光度分布と距離(高瀬), 光度と質量分布(横尾), Non-circular Velocity Field(小暮, 登谷), Active Galaxies(小暮), 銀河核からの赤外輻射(大谷), Seyfert Galaxies(作花), QSSの進化(田原), 宇宙電波源の電波スペクトル(若松)

力学理論: 総論(大木), 扁平銀河の安定(藪下), 渦状構造理論(宮本), 恒星系 n 体問題(堀), 揺動力(清水)

その他: 微光天体の分光観測装置(石田), シュミット望遠鏡計画についての討論のまとめ, など。



発売中

東京天文台編
A6・五〇〇円

44年版

理科年表

最も権威ある科学のデータブック!

内容

暦部/天文部(太陽系/恒星/雑)/気象部/物理化学部(単位/元素/物性/熱/音/光/電磁気/原子/分子/原子核/雑)/地学部(地理/電離層/地質及び鉱物/地磁気及び重力/地震) 附録

科学知識として日常に必要ないろいろの定数・資料を暦・天文・気象・物理化学・地学の各分野にわたって完全に集約した権威ある書で、中・高校・大学生の学習に理・工・農・医の諸分野の関係者、研究者・技術者の実務に活用される実用データブックです。

M 丸善

東京・日本橋/振替東京5番